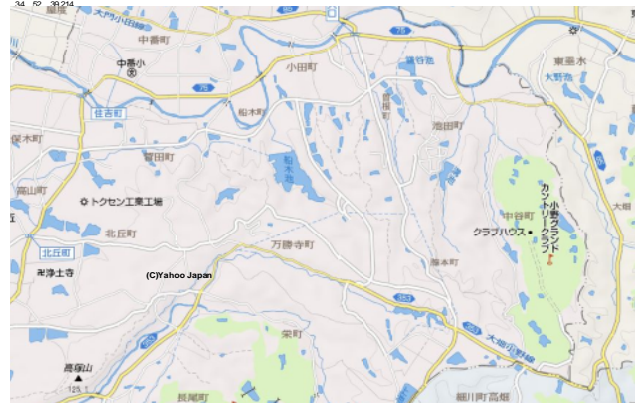


小野市廣瀬谷池における環境配慮の取組みについて
The action of taking care of Hirosetaniike irrigation ponds in Ono City

朝比奈 潤二
ASAHINA Junji

1. はじめに

廣瀬谷池がある兵庫県北播磨地方は瀬戸内海式気候帯であり、その特徴として少雨である。本地域は加古川流域であるが、河川による農地かんがい可能な面積は大きくなく、かなりの農業用水がため池に頼った構造となっている。そのため、地域には非常に多数のため池からなるため池群が構成され、生物の好適地となっている。



廣瀬谷池と周辺ため池群

2. 廣瀬谷池の概要

廣瀬谷池は3箇所池から構成されており、直列ため池である。築造年は不明でかなり古いと考えられる。現在3箇所とも老朽化により漏水があり、平成22年度にため池等整備事業により採択され、改修する予定である。

		受益面積	堤高 (m)	堤長 (m)	貯水量 (千m ³)
1号池	現況	11.0 (ha)	4.63	58.7	7.0
	計画		6.25	54.5	6.5
2号池	現況		3.86	39.2	4.0
	計画		4.63	39.2	3.5
3号池	現況		4.26	40.4	5.0
	計画		5.33	40.4	4.2

廣瀬谷池ため池諸元

3. 廣瀬谷池の希少種

ため池等整備事業採択に際し環境調査を行った結果、本ため池には幾つかの希少種が存在することが分かった。希少種の認定については国、近畿、県によって差異があるが、そのいずれかに該当する品種が廣瀬谷池に4種類見つかっている。

品種	県版 RDB	近畿版 RDB	国版 RDB
ヒメコウホネ	C	C	類VU
アギナシ	B	A	類NT
ヒメタヌキモ	B	A	類NT
ヒメタイコウチ	A		

廣瀬谷池の希少種

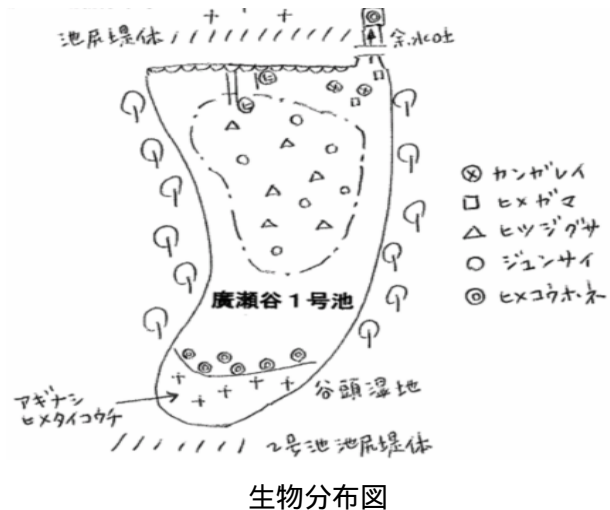
ヒメコウホネは根をため池の池底にはり、葉を水面に浮かべる。水深1m前後が生育に適した環境となる。ヒメタヌキモについては水中植物で生体が全て水中に浸かっている状態で生育する。アギナシについては湿潤地を好むが水深のあるところでは生育が困難である。ヒメタイコウチはタイコウチの仲間であるが、空気を吸う管が短く水中での適合性はない。湿地を好むが、水中では生息できない。

4. 希少種の対応

希少種の生育分布図からみると、ヒメコウホネはため池水面に広く分布する。ヒメタヌキモについても同様と考えられる。そのため、両種については工事期間について一時的に避難をし、工事終了後ため池に戻すことで対応が可能であると考えられる。

しかし、アギナシ及びヒメタイコウチについては、ため池に挟まれたエリアのみ生息していることが分かる。このエリアはため池の漏水により湿地化

した場所であり、ため池改修により漏水が無くなった場合、このため池には生息可能な場所がなくなってしまうことを示している。そのため、アギナシ、ヒメタイコウチについては近隣の適合地に移すという手段を考える必要がある。



5. 地元の対応

希少種の保護については地域の協力が不可欠である。しかし、地域住民にとって希少種は必ずしも珍しいものではない。日常見かける植物であり、昆虫であるからである。そのため、希少種の保護については消極的なことが多く、まず、地域住民が正しい認識を持つところから始める必要がある。この地域では関係集落に呼びかけ「環境学習会」を開催した。現地で希少種の品種や生育環境に関する説明を行い、公民館が外来生物の問題を中心とする環境学習を行った。関係戸数35軒のうち過半数が参加していた。

その後しばらく時間をあけて、希少種保護に対する意見を求めたところ、保護についての積極的な意見がよせられた。その中にアギナシ、ヒメタイコウチについても何とか今の場所に残せないのかという意見があった。具体的な工法の検討も必要であり、設計を含めた検討になるため、現在具体的な話は中断している。

6. まとめ

当初は土地改良法に環境配慮の項目が加わり、機械的にこなしていたに過ぎなかった。しかし、希少種保護の問題があり、有識者の指導による学習会を開催するに及び、地域住民に変化が見られた。日常見られる植物、昆虫が実は非常に価値のあるものだということに気づいた。その価値観の高揚は、単に生物の価値だけに留まらず、それを育てているため池、そのため池を維持している地域にも及んでいるようである。

ため池の改修についてあまり意見を言わなかった地域が、希少種の保護をきっかけに「今のため池の雰囲気を残したい」という自らの地域に自信を持った意見が出るようになった。実際に設計した結果がどのように進むのか現段階では不明であるが、地域で考えていく過程が地域の価値の再発見につながり、廣瀬谷池がすばらしい姿で保全されること、だけは確かであると思う。